深谷市シルバー人材センター

シルバーだより

2017
9月
No.74

発行 公益社団法人 深谷市シルバー人材センター
深谷市上野台2567番地　　電話 048(573)3345
http://www.fukaya-sc.or.jp/

会員数 1,089人
男 792人
女 297人
平成29年7月31日現在

緑の王国　　（シルバー会員1名が就業しています。）

目次

● 平成29年度定時総会開催 …… 2
● 平成28年度事業実績表 …… 3
● 会員表彰 …… 3
● 私のふるさと紹介 …… 4
● こんな仕事もしています（駐輪場管理） …… 5
● 投稿コーナー（元気をもらいました） …… 5
● 深谷市シルバー人材センター入会のご案内 …… 6
● 編集後記 …… 6

センターの理念〈自主・自立、共働・共助〉

平成二十九年度 定時総会開催

平成二十九年度定時総会が六月二十九日（木）午前十時より深谷市民文化会館小ホールにて開催されました。

柿澤理事の開会宣言に続いて、小暮理事長の挨拶が行われ、引き続き来賓の深谷市長　小島進様、深谷市議会議長　吉田幸太郎様、公益財団法人いきいき埼玉理事長岡崎守様から挨拶を頂きました。

司会の浅野理事より、会員数、千八十九名中、出席者百三十四名、委任状百二十六名、議決権行使書四百九十二名、合計七百五十二名で総会は成立した旨が告げられました。

議長の選任に移り、遠藤理事が指名され議案の審議に入り、全て原案通り承認可決されました。

転倒防止を目的とした安全講話と会員表彰が行われ、小山理事の閉会宣言により無事終了しました。

報告事項

㈠ 平成二十八年度監査報告
㈡ 平成二十八年度事業報告について
㈢ 平成二十九年度事業計画について
㈣ 平成二十九年度収支予算について

議事

・議案第一号
平成二十八年度決算の承認について

理事長挨拶　小暮　孝雄

市民の皆様をはじめ企業や事業主の皆様には、日頃から深谷市シルバー人材センターをご愛顧いただき誠にありがとうございます。

さて、当センターでは現在千百人程の会員が植木の剪定や除草作業をはじめ、公共施設の管理や事業所内での軽作業など幅広い分野で力を発揮しています。

しかし、企業における定年延長や継続雇用の広がりなどにより会員数は伸び悩んでおり、こうした状況を解決するため、今後は就業機会の拡大に併せ、イベントでのPRや会員自らによる入会促進活動など様々な施策を展開し会員の増加に繋げていく所存であります。

当センターでは、健康で働く意欲のある高齢者の皆様のご入会を心からお待ちするとともに、会員皆様の期待に応えるため、引き続きキャリアを活かして活躍できる場の確保に努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

なお、現在会員一同、就業品質の向上を目指し頑張っておりますので、市民の皆様、企業、事業主の皆様には是非とも当センターをご利用いただきますようお願い申し上げ、ご挨拶といたします。

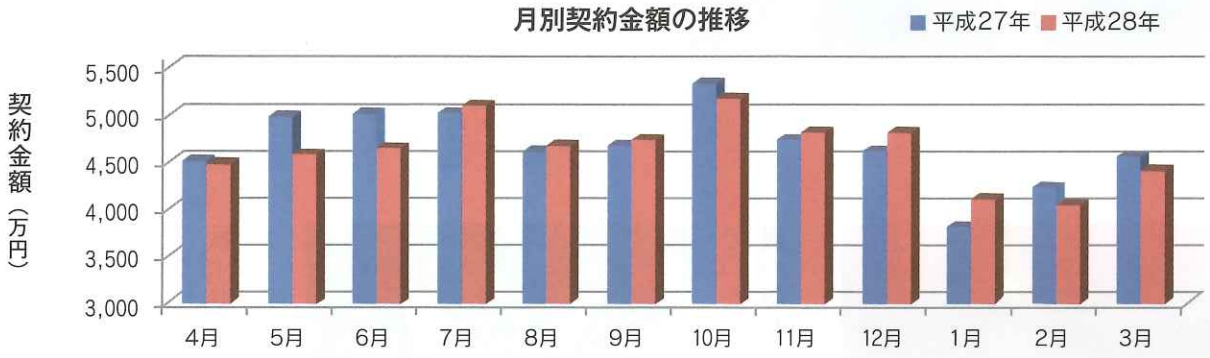
理事・監事紹介

理事長	小暮　孝雄
副理事長	谷内　隆彦
専務理事	
兼事務局長	栗田　理一
理事	吉田　二郎
理事	小山　進
理事	清水　進也
理事	浅野　俊二
理事	遠藤　淳
理事	柿澤　久之
理事	佐藤　光義
理事	髭右近義雄
理事	真下　俊枝
監事	浅見　文雄
監事	森　隆利

平成28年度　事業実績表

（派遣事業を除く）

区　分		平成27年度	平成28年度	増　減	前年対比（%）
会員数（人）		1,068	1,065	△3	99.7
就業実人員数（人）		994	960	△34	96.6
就業延人員数（人）		115,925	115,535	△390	99.7
就業率（%）		93.1	90.1	△3	96.8
受注件数（件）	公共	177	185	8	104.5
	民間	678	643	△35	94.8
	個人	4,641	4,371	△270	94.2
	合計	5,496	5,199	△297	94.6
契約金額（円）		558,192,102	555,960,593	△2,231,509	99.6



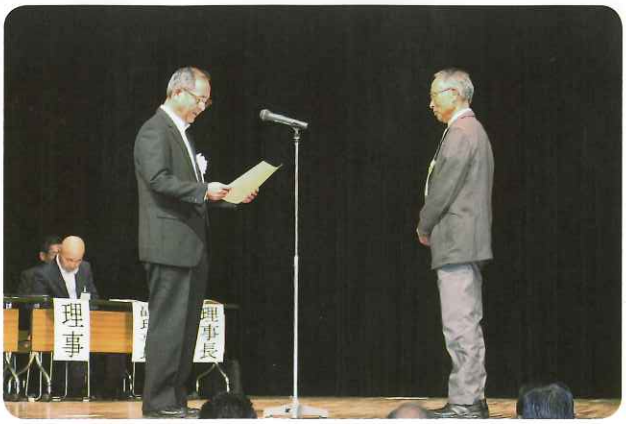
おめでとうございます

会員表彰

会員として10年以上在籍しセンターの事業発展にその業績が顕著な皆様

（敬称略）

河田坦三　佐藤晴武　横川謙世　本多孝之　馬場玲男　三浦耕子　川俣敏一　井上正　水沼武　安野充　小島里子　神山洋一　鴇田次郎　飯島守夫　坂本勝子　小林伸光　佐伯守敏　町田三枝　清水貴美枝　小沢洋子　大谷カツ子　石川和子　手塚辰夫　石渡光子　小菅　茂　山田好里



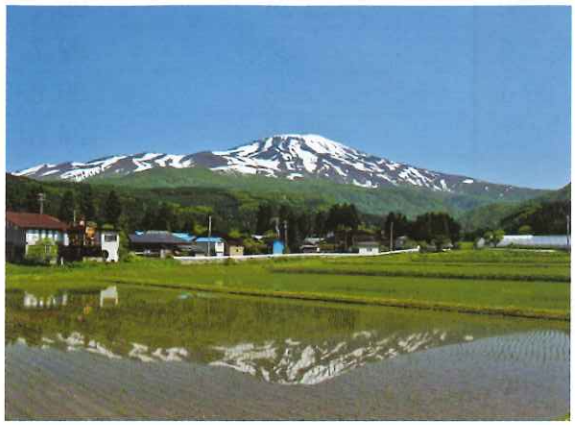
私のふるさと紹介

（山形県酒田市）

「幼いころの記憶」

人の記憶は幾つの頃からあるのか？

私は山形県酒田市船場町と言う港に近い母の実家の二階で生まれた。一緒に住む従妹（四人）が小学校から帰ってくる頃、幼稚園に行かなかった私は、「遊び相手が帰ってくる」と家の前でウキウキしながら待っていた記憶がある。ちょうど小学校に入学するのに合わせ、新築した家に引っ越した。従妹たちとは離れてしまったが、それに代わって学校の友達が大勢出来た。そして、妹も出来た。毎日、日の暮れるまで遊びまわっていた記憶がほとんどである。



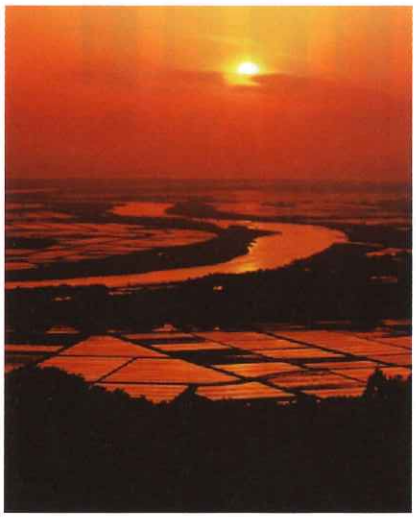
日本百名山「鳥海山」

新しい住居は市内の山居町で、〝おしん〟のドラマに出てくる山居倉庫の近くにある。ここで小学五年生までを過ごした。酒田市の生活はここまでである。

父の転勤で、六年生になると同時に秋田県に移り思春期を過ごす事となった。

山居倉庫

四十一年前の〝酒田大火〟で中心部の商店街が焼け落ちたが、山居倉庫の前を流れる川が、我が家を大火から守ってくれた（この時私は横浜に住んでいたが）。今は、山居町の家に九十二歳の母が一人で住んでいる。



庄内平野と最上川

酒田は、日本海に面して、庄内平野を持つ米の産地である。また、町から雄大な鳥海山が見え、「五月雨を…」の最上川が流れている。観光名所は幾つかあるが、私にとって酒田は〝海、山、川、野〟の自然に囲まれた〝自慢のふるさと〟である。

（会員　兵田周平）

五月雨を…の句碑

宮海海水浴場

（写真提供：酒田観光物産協会）

こんな仕事もしています

駐輪場管理（深谷駅前日通自転車預かり所）

深谷駅周辺には数ヵ所の無料駐輪場がありますが、私が就業しているのは屋根付き有料駐輪場で、場所は駅北口からグランドホテル方向へ百メートル余り、深谷駅東駐車場の向かい側です。

業務は、自転車の整理、新規預け入れの受付等であり、日曜・祝日に限り、朝六時から夜九時半まで行っています。シルバー人材センターの会員三人で、前半・後半に分けてローテーションを組み就業しています。

ローテーションは、事前に六ヶ月単位で作成し、各人の了解を得た後正式に決定します。しかし、個人の都合によっては、就業の変更をすることもあります。就業予定表は、各人で所有し管理室へ貼りだすと共にシルバー人材センターへ届けています。

当駐輪場は、夜間は完全に閉鎖されますので、安全に自転車を預けていただけます。一日だけのお預かりから、一ヶ月単位での月極めでのお預かりをしています。

就業中、お客様には丁寧に対応するように心がけており、私達で解決できない問題が発生した場合は、平日管理人へ申し送りしています。

私は、この仕事をすることにより、変化のある、充実した人生を過ごす事が出来ています。

（会員　西川正幸）

駐輪場内

投稿コーナー

元気をもらいました

心和む朝顔が咲いている。去年シルバーの仕事に行ったとき、分けてもらった根から見事に成長したのです。緑濃い葉は花を囲み、愛し子を抱く母のようです。日増しに花の数も増え、みんなで楽しい話でもしているかのように揺れているのを見ると、自分の子育て当時が思い浮かび、仲間に入れてもらえるだろうかと「おはよう」と、声をかけています。

頭の上ではツバメが飛び交い、我が子の元へと忙しく餌をはこんでいます。ヒナの健やかな成長を親鳥と一緒に私も願っています。花も鳥も一途で逞しく生きている。苦難にも負けず。「ありがとうね」この夏を乗り切る元気をもらいました。

（会員　高橋勝栄）

あなたも入会しませんか！

◆深谷市シルバー人材センター・会員構成　（単位：人）　平成29年3月末現在

区分	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	計
男性	51	274	273	148	29	2	777
女性	33	98	101	46	10	0	288
合計	84	372	374	194	39	2	1,065

平均年齢区分	男性	女性	全体	最高齢者	男性	女性
平均年齢	71.0歳	70.2歳	70.8歳		88歳	82歳

会員入会説明会

毎月第２・第４木曜日　午前10時より

■深谷市シルバー人材センター

1F 会場にて開催します。
＊事前予約はありません直接お越し下さい。

〒366-0801
深谷市上野台2567番地
電話 048－573－3345

○深谷市にお住まいの方で60歳以上の方
（年度内に60歳になる方も含みます）
○健康で働く意欲のある方
○センターの趣旨を理解し、賛同する方

ご案内図

年齢別・構成比

あなたも深谷市シルバー人材で 福祉の受け手から社会の担い手へ

ご入会までのご案内

☆会員入会説明会にお越しください
↓
☆シルバー人材の仕組みのビデオをご覧ください
↓
☆事務局職員よりの入会説明をお聞きください
↓
☆「入会申込書」等の書類にご記入いただきます
↓
☆理事会の承認後、会員登録のご案内いたします

会員になられても収入の保障、希望する仕事が必ずあるとは限りません。

編集後記

いくつになっても、子供の頃の思い出は忘れられないものである。あんなに高く感じていた小学校の石垣は、今は手の届く高さであり、蛍が飛び交い、よく氾濫したあの川は、今は高い堤防に守られて、蛍の姿も見受けられない。

こんな、我がふるさとを偲び、子供の頃を思い出してもらいたいと考え、今号から「私のふるさと紹介」を掲載することになりました。

掲載された、「私のふるさと紹介」が皆様のふるさとを、懐かしく思い出すきっかけになればと思っております。

是非、シルバー会員皆様の「ふるさと」を紹介してください。投稿される場合は、文字数や写真など、遠慮なくご相談ください。問い合わせは、事務局または普及啓発委員会までお願いいたします。

（普及啓発委員会）